

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 77 号

平成31年3月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次	P.1	世界がまだ見ぬボールパークをつくろう	P.5
シーラカンス・プロジェクト	P.2	関西地区親睦会／地域貢献	P.6
研究室紹介	P.3	大漁おどり太鼓	P.7
瀬戸内の水族館で働いて	P.4	お知らせ	P.8

海洋生命科学部シーラカンス・プロジェクト



シーラカンス展除幕式 (2018.11.3、MB館)

右列中央より国際科学振興財団の大竹会長、岡田所長、小野寺専務理事、北里柴三郎記念館・島田事務局長、おふなトン、左列中央より伊藤学長、緒方常任理事、北里副学長(医療衛生学部長)、菅野学部長、三宅准教授。



シーラカンス共同研究プロジェクト調印式
(2018.3.30、プラチナタワー)

調印書を手にする国際科学振興財団・大竹会長と小林理事長



シーラカンス成魚のプラスティネーション標本

「シーラカンズ・プロジェクト」

海洋生命科学部 菅野 信弘

三水会の皆様こんにちは。

学部では2018年より「シーラカンズ・プロジェクト」を展開しています。本プロジェクトの中核は、「シーラカンズ共同研究プロジェクト」ですが、さらに学部教育、学部広報への展開を含めたプロジェクト全体を「シーラカンズ・プロジェクト」と呼んでいます。ここでは、プロジェクトの概要を紹介させていただきます。三水会会報の紙面にて紹介する機会を頂きましたこと、高橋三水会会長並びに編集担当の皆様にご礼申し上げます。

1 シーラカンズ共同研究プロジェクト

シーラカンズは生きた化石として知られ、現在、アフリカのシーラカンズ (*Lamiera chalumnae*) とインドネシアのシーラカンズ (*L. mendensis*) の2種が知られています。しかし、何れの種も現在は全て保護され、捕獲・採集が出来ないため、シーラカンズは新しい標本を得ることができない生物となっています。現存の標本についても国外からの移動が規制されているばかりでなく、国内の移動にも届出が必要です。

シーラカンズ共同研究プロジェクトは、公益財団法人国際科学振興財団シーラカンズ研究所（茨城県つくば市）の岡田典弘所長からの発案で検討が始まりました。岡田所長には学部の相模原移転直後より渡部終五特任教授の紹介で客員教授として学部教育・研究にご協力いただいております。岡田

所長は、種進化に関する研究の第一人者として知られ、また、タンザニアから寄贈されたシーラカンズ冷凍標本を用いて多くの業績をあげています。岡田先生の研究業績、シーラカンズを寄贈されることになった経緯等については「科学者の冒険」（クバプロ、2017年）に詳しいので、是非ご一読いただければと思います。

岡田所長からの発案を受け、学部では渡部特任教授、三宅裕志准教授、岩島徹事務長が中心となって協議を進め、2018年3月30日に白金プラチナタワーにて国際科学振興財団との共同研究調印式が行われました。これにより同年4月から同財団が所管するシーラカンズを用いる共同研究プロジェクトが開始されることになりました。

生きている化石といわれるシーラカンズには、中空の脊椎や非常に強固な鱗など多くの特徴がありますが、最大の特徴は骨のある鰭と言えるでしょう。この特徴は、四肢動物と魚類を繋ぐ形態として注目され、骨格と筋肉の解剖学的な研究が行われています。しかし、その筋肉の動きを支配する神経の分布については、標本の入手が困難なためほとんど研究が進んでいないのが現状です。本共同研究プロジェクトでは、国際科学振興財団シーラカンズ研究所の岡田所長の支援を受け、今後は絶対に入手できない世界的にも貴重なシーラカンズ胎生仔魚の冷凍標本を材料として、Computed Tomography Scan (CT) 、Magnetic Resonance Image (MRI) 、組織透明化技術等の非破壊観察手法を応用し、神経分布

を視覚化することを目的としています。CTやMRIを用いた分析には医療衛生学部の協力を得ることとしており、今後全学的なプロジェクトに発展することも期待されます。

2 教育、広報への展開

学部では共同研究を進める一方で、シーラカンズを在学生、受験者層、一般層に向けて海洋生命科学の魅力を発信するツールとして積極的に活用する事業を進めています。シーラカンズが持つ、未知の魅力、研究対象としての魅力は、海洋生命科学の魅力を象徴する最適な対象になると考えています。本事業では国際科学振興財団より

シーラカンズ成魚と胎生仔魚のプラスチック（魚体の水分をプラスチック樹脂で置換した半永久的な標本）を貸与していただき、2018年11月3日よりMB号館ミニ水族館においてシーラカンズ展を開催しています。展示される成魚の標本は、2009年に日本に持ち込まれた採集例の少ないタンザニア・キルワ産の個体です。平成天皇陛下のお立ち会いのもとで解剖された個体で、そのち、プラスチック（魚体の水分をプラスチック樹脂で置換した半永久的な標本）にされたものです。そのため、この標本では中空の脊椎や筋肉、内臓、卵の状態も観察することが出来ます。胎生仔魚は、2008年に輸入され



シーラカンズ胎生仔魚のプラスチック（魚体の水分をプラスチック樹脂で置換した半永久的な標本）

た10個体の中のひとつ（共同研究に使う個体もこの中のひとつ）で吸収寸前のヨークサック（卵黄嚢）を観察することが出来ます。また、成魚では非常に固く表面に多数の棘が発達している第1背鰭が、胎生仔魚の段階では硬骨化していないことが確認できます。現在、幾つかの研究グループが生きたシーラカンズのビデオ撮影に成功していますが、この意味では胎生仔魚の標本は成魚の標本以上に貴重なものという事が出来るでしょう。

シーラカンズ展ではシーラカンズの標本を中心に、鰭から四肢への進化、肺から浮袋への進化などをテーマとしてシーラカンズと繋がる現生の生物を展示しています。展示される主な生物は、現生のシーラカンズと同じ仲間、シーラカンズと並んで生きた化石といわれるオーストラリア肺魚、一般的な魚類（条鰭類）のなかでも原始的な形態をもつポリプテルス類、ポリプテルスや肺魚の幼体にもみられる外鰓をもつメキシコサラマンダーの幼形成熟個体（通称ウーパールーパー）などです。これらの展示は、アクアリウム・ラボの学生が企画・運営しています。学生が不在時にもベッパ君が説明いたしますので、是非一度お越しただければと思います。本事業ではさらに、受験者層に向けたシーラカンズ関連広報グッズを展開しています。今のところ手拭いと缶バッジですが、今後ポリエーションを増やしていきたいと思っています。北里のライフショップにて販売しております。学部長のお勧めは手拭いです（ティッシュボックスカバーにもなります）。

2022年に水産学部・海洋生命科学部創立50周年を迎えます。シーラカンス・プロジェクトは50周年記念事業の一つとして展開することを計画しています。創立50周年に相応しい成果が



と、三水会会員の皆様の本プロジェクトへのご支援を期待しつつ筆を置かせていただきます。

沿岸生物学(旧海洋基礎生産学研究室) 研究室の近況報告

沿岸生物学研究室・助教
広瀬 雅人

2017年4月に沿岸生物学研究室に着任した広瀬雅人です。よろしくお願いたします。2017年3月に退官された加戸先生に代わり、現在、難波先生と二人で研究室を運営しております。卒業生の方々には、海洋基礎生産学研究室という名称の方が、馴染みがあるかもしれません。現在研究室で使用している機材には今でも「基礎生」や「水圏生物」のラベルが多くみられます。「沿岸生物」しか知らない私としては、研究室の歴史と変遷を感じることができる貴重な存在でもあります。

現在、研究室には院生1名と4年生16名が配属されており、4年生は難波先生と私で各々8名ずつ担当しています。2017年度は私の着任の年だっ

たことから4年生は8名のみでしたが、この一年で一気に賑やかになりました。研究室での活動時間は学生に任せているため、朝早くから来てパソコンに向かう学生もいれば、午後から来て夜遅くまで顕微鏡に向かう学生もいます。普段は8名という人数の多さを感じることはありませんが、中間発表や卒業論文執筆の時期になると全員が細長い学生部屋に詰めとなるため、急に狭くなったように感じます。

研究室では年に3回の中間発表を実施しています。学生にはそこで研究の計画や進捗状況などを発表してもらっています。中間発表に向けて開催されるゼミでは、学生も必ず一つは質問するようにしています。最初はどのような質問したら良いのかもわからず困惑する学生も多いですが、回数を重ねるにつれて研究の考え方のコツがわかってきて、的を射た鋭い質問が出てくるようになってきます。中間発表では活発な意見のやり取りもあり、学生と教員双方にとってよい刺激となっています。

ここで、私の研究内容について少し紹介したいと思います。加戸先生はフジボという付着生物のスペシャリストですが、私はコケムシという付着生物を専門としています。コケムシ(苔虫動物門あるいは外肛動物門として知られます)は、貝殻や海藻などに付着する植物のコケのような見た目をした動物で、1mmもない個虫が無性生殖で群体をつくって成長します。カキやホタテの貝殻にもよく付着しているので、宴会の場や食卓で気づかず目になっているかもしれません。養殖水産物に

付着することから汚損生物としても有名で、漁業者の方々からも数多くの相談が寄せられる一方、まだまだ日本にも未記載種(新種の候補)が多数生息している興味深い動物です。

研究室では現在、ほぼ毎月の頻度で調査のため三陸に行っています。難波先生は越喜来湾で海藻の研究や水質調査を続けています。私は以前から大槌湾で調査をしていたこともあり、現在は越喜来湾と大槌湾の両方で付着生物や底生無脊椎動物の調査をしています。加戸先生が鬼間ヶ崎で実施していた付着板調査も引き継いでおり、毎年の卒研生がフジボやコケムシを数えています。難波先生の学生は「植物班」、私の学生は「動物班」と分かれてはいますが、同じ海域で調査するため一緒に調査することも多く、フィールドでも互いに助け合いながら、和気藹々と楽しく研究を進めています。動物班は調査の際は相模原から三陸まで公用車で行くことが多く、学生たちと途中のサービスエリア等を巡りながら美味しいものを食べまくるツアーのようです。



研究の面では、難波先生は「海藻類の生活形の解明」や「養殖海域の環境特性の把握と安全性評価」を進めています。私はコケムシを中心とした水生無脊椎動物の分類や生活史、さらに

付着生物群集の生態について研究しています。学生にはそれらの研究に関連するテーマを与えたり、もしくは学生が自分たちで考えてきたテーマの中からこちらでサポートできそうなものを選んだりしています。最近就職志望の学生が多く、なかなか大学院進学を目指してくれる学生が少ないのが残念ですが、研究者が教育に携わっている大学で卒業「研究」に携わるからには、進路にかかわらず、その期間中はガッツリ研究の世界に浸ってもらいたいと考えています。1年弱という期間であっても、大学でしっかり研究に携わった経験そのものが、自信や自負にも繋がると期待しています。

私は着任してまだ2年目なので、自分が担当した卒業生は数えるほどしかいません。それでも卒業生が会いに来てくれたときは、当時の調査や研究の話題で大いに盛り上がります。また、私が着任する以前の卒業生の方々とも、調査や会議などで出合い楽しくお話しさせていただく機会が多く、なんとも嬉しい気持ちになります。調査で三陸に行くことが多いこともあり、三陸にもまた行きたいと思う卒業生も多いようですので、こちらの調査日程に合わせて三陸旅行に来てくれる日も近いかもしれません。そのときは、是非とも一緒に船で越喜来湾に繰り出しましょう。皆様も機会がありましたぜひお気軽にお立ち寄りください。

最後に、本稿執筆の機会を与えてくださった三水会と難波先生に感謝いたします。

瀬戸内の水族館で働いて

F M 3期 内田 博陽

はじめまして。北里大学水産学部を2009年に卒業しました内田博陽（うちだひろあき）と申します。現在、私は山口県にある周防大島という島で生活しています。島と言いましても本土とは橋で繋がっており、車で渡ることができます。

周防大島は瀬戸内海でも淡路島、小豆島に次いで3番目に大きな島です。一年を通して温暖な気候で豊富な魚介類に名産のみかん、近年ではハワイへの移民が多い歴史もあり、「せとうちのハワイ」とも言われ観光業も盛んです。その一方で日本有数の高齢化が進んだ町で高齢率は50%をこえ、人口減少率は10%近くになります。ある意味日本の最先端をいくこの島で私が何をしているかと言いますと、水族館の職員をしています。

まさかこんなところに水族館があるとは！と来館者の皆様には驚かれます。

東京からだと公共交通機関を乗り継いで約10時間、沖縄や北海道の方が近いのではないかと思うくらいです。水族館マニアのなかでは「到達困難水族館」とも言われているようです。島に橋を渡って水族館まで34km、車で約40分。その間に信号は5か所くらいです。

皆さん水族館と言いますと、色とりどりの魚、イルカやアシカた



愛猫愛犬とともに

ちの華やかなショーを想像される方が多いと思います。なぎさ水族館にはそういった類のものはなく、地元の海の生き物を展示しております。

周辺海域の平均水深は30mと浅く、夏は27℃まで水温は上昇し冬には8℃まで低下します。そのため「せとうちのハワイ！」と言っておきながら、マジ、マダイ、ブリ、クロダイ、メバル、キウウセンなど皆さんなじみ深いのではないのでしょうか？地味な魚が多いです。島の小さな水族館で地元の生き物を小さな水槽たちと巨大なタッチングプールで展示しているのが、周防大島町なぎさ水族館です。

水族館で私は学芸員をしています。学芸員と言いますと、とてもカッコイイみたいですが、飼育員の方がどうやらわかりやすいので、よく飼育員と名乗っております。

なぎさ水族館には飼育員が2名、受付1名、管理者1名の小さな職場です。なので皆で力を合わせて頑張っています。私の同僚であるもう一人の飼育員は大学時代に同じ研究室の後輩で、今では先輩です。なんとも北里色の強い水族館です。

飼育員の仕事はその名の通り展示生物の入手から管理飼育、水族館で使用する機器類の管理、広報活動、事業計画の立案など非常に多岐にわたります。正月飾りの門松だって作っちゃいます。水族館の仕事の全体をみることは大変ですがやりがいを感じます。展示生物の入手の方法ですが、地元の漁業者の提供と自分たちで採集するのがほとんどです。

漁師さんからの連絡があれば、すぐに駆け付けます。たまに食用の魚もい

ただくことがあります。そうしたら、自分で調理し、新しい解説文に役立てたり、講義の資料にしたりします。自家採集では磯採集、クラゲ採集、タモ網を使った採集や、最近はじめた釣りをしていきます。どうやら社会人になっても三陸での学生生活と行動はあまり変わらないようです。

採集方法が限られているので、独自の展示には力を入れています。

セミエビの仲間のフイロゾーマ幼生、ウナギの仲間のレプトケファルス幼生、カニの仲間のゾエア幼生などの浮遊系生物と言われる展示に力を入れています。その他にも周防大島が日本最大級の群生地と言われるニホンアワサングの展示もおこなっております。

ニホンアワサングは温帯域の岩礁域に生息するサングです。緑色に輝き12本の触手が波にたなびく姿がとても幻想的です。しばしば大規模なサングの群落をつくるようできて、周防大島にも大規模な群落が形成されています。美しい地域の宝を是非とも展示したいと思いました。

学生時代は河川生態系について研究をしておりサングの生態など全くわからない状況でのスタートでした。飼育員は2名しかいないので相談できる上司もいません。

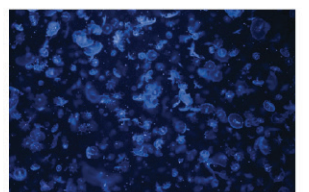
何も知識、経験がないところからのスタートでした。アワサングの展示ははじめたころは、上手くいかず



ニホンアワサング

に、弱ってしまったり、せっかく展示できて死

亡してしまったり、と失敗の連続でした。まだ飼育に成功している水族館もな



周防大島のクラゲ

いらしく、論文も数点みつか程度で、情報もあまりありませんでした。

インターネットでサングの情報をかき集め、アクアリストの本も読みあさりました。他所の水族館や研究所の方にも相談したりもしました。水深5mまで素潜りで潜りアワサングの幼生の採集もおこないました。少しずつ情報を獲得し、経験をつみ、ついにニホンアワサングの展示開始から4年後の2016年にニホンアワサングの水槽内での繁殖に世界で初めて成功しました。小さい水族館ながらもニホンアワサング群生地にある水族館としての誇りが守れたことが嬉しかったです。

水族館に赴任した当初、地元の首長である周防大島町長に表敬訪問に伺うことになりました。その時のことでしたが、「周防大島町としては水族館だけにたくさん予算はかけられない。」と大変厳しい言葉をいただきました。

ニホンアワサングや周防大島産のクラゲなど特色ある展示や移動水族館や地域の活動を通して、だんだんと水族館と地域に関わり合いが持てるようになってきたと思います。スーパで子供に会おうと「なぎさ水族館の人だ！」と言われます。テレビや新聞にも取り上げられることも多くなりました。つい先日、町長の口から「なぎさ水族館を周防大島観光の一つの核に。」とい

う言葉が出たことはとても嬉しいことです。これからも地域に支えられながら、もつと地域に愛される水族館でありたいと思います。

皆様、近くにお越しの際はお立ち寄りください。おいでませー周防大島！

世界がまだ見ぬボールパークをつくろう

水産学部増殖学科7期

福田 要

三水会の皆様。私は増殖学科7期生の福田要と申します。この度は私の職場・近況紹介ということでリクエストを頂戴致しましたので、ご報告させていただきます。

私は1982年に卒業し、日本ハム株式会社へ入社致しました。その後、営業・商品開発・企画等の仕事を経て、2010年にグループ会社であり、プロ野球チームである(株)北海道日本ハムファイターズへ異動し、全く食品とは畑違いである野球興行の仕事に従事致しました。住まいも大阪から北海道へ移し、冬は北の大地の洗礼を受けながら8年が経過しました。その間、リーグ優勝二回と日本一を一回経験させて頂き、とても良い思い出となりました。さて、現在の私の職場ですが、実はファイターズからは一旦卒業を致しまして、2018年3月に新たに設立致しました(株)北海道ボールパークという会社の代表を務めさせて頂いております。これは何の会社かと申しあげますと、2023年に北海道北広島市にファイターズが新たに建設する本拠地

球場を含むボールパーク構想を進めるための準備会社です。※注)ボールパークとは球場を中心に多目的な周辺施設を伴った空間(場所)のことを指します。

ファイターズというプロ野球チームは、2004年に東京からフロンチャイズを北海道に移し、15年が経過しました。現在の本拠地である札幌ドームはもともと2002年の日韓FIFAワールドカップ開催用に建設されたサッカー場であり、野球場ではありません。また自前球場でないため自由度も低く、野球場としてのファンサービスにも常々限界を感じておりました。球団内では早い段階から議論しておりましたが、2018年の11月5日に新球場建設計画の概要について記者発表させて頂きました。この新球場を建設するにあたっては大きく二つの目的があります。

ひとつはアスリートファースト、すなわち選手のプレー環境の改善です。現在の札幌ドームは人工芝のためクッション性を含めて非常に選手の身体に負荷をかけていますので、是非天然芝のフィールドで思い切ったプレーをしてもらいたいですし、これにより故障因子の減少と怪我を可能な限り防止したいと思います。またトレーニング環境やコンディショニング施設も充実することで、より高いパフォーマンスを発揮してもらいたいと考えています。そして2つ目がファンサービスファースト、すなわちお客様の観戦環境の改善です。メジャーリーグのスタジアムを参考にファンのニーズに沿った豊富な席種をご用意します。より選手に近い場所から臨場感あふれるプレーを間近に見られる席や温泉に入り

ながら試合が見られる席などコアファンから野球に興味がない方まで楽しんで頂けるような娯楽性の高い施設を考えています。

またボールパーク全体の考え方としては、次に記載する五つの意義があります。

- (1) 北海道のシンボルとなる空間の構築
- (2) 災害発生時の防災拠点としてのボールパークの活用
- (3) スポーツの振興・普及・拡大に寄与
- (4) 高齢者等の健康増進に寄与
- (5) ライブエンターテインメントを通じた地域活性化およびコミュニティの醸成

では、もう少しイメージが湧くように施設の特長を幾つかご説明したいと思います。まずボールパーク全体の広さは約37ヘクタールあります。スタジアムの外観ですが写真にあるように非常に斬新なデザインです。北海道のような寒冷地では、まだ雪が残る春先や寒くなる秋口には屋根無し球場で試合をすることは選手にとってもお客様にとっても大変厳しく、通常はドーム型球場と呼ばれる密閉式の球場になります。ただそれでは天然芝を育成することが出来ません。我々は天然芝を育成するために必要不可欠な「日照」と



写真1

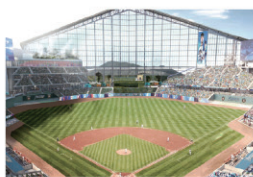


写真2



写真3



記者会見する私

「風」を取り入れるように屋根構造を可動式にします。

写真1は屋根を開けたときの上空からの見え方になります。冬の積雪対応も考えた世界中どの球場にも無いデザイン・仕様になっています。

また、写真2にありますようにセンター後方にある壁も太陽光が入るよう全面ガラスの仕様を考えています。これらの工夫により北海道での天然芝フィールドを可能にします。

現在、準備会社としてはゼネコンと一緒に基本設計に入ると同時に、ボールパークを構成する球場周辺施設の誘致に動いております。2023年春の開業時に全てが完成しているのではなく、地域・行政・パートナー様など様々な方々と一緒に北海道のシンボルとなる空間を共同創造していきたいと考えています。

写真3のように北海道の雄大な自然と共生し、北海道らしさの中で語らい、遊び、食事ができる、そして臨場感あふれる劇場の中でスポーツ観戦ができるような地域に根付き、地域と共に発展する「まちづくり」の核となる成長型のボールパークの実現を目指しております。みなさんも2023年3月には是非北海道へお越しください。

＜<https://www.hkdballpark.com/>>

2018年度関西地区親睦会

水産増殖学科23期 北吉 直子

去る2018年11月18日(日)

13時30分から、心斎橋「浪花そば」にて関西地区親睦会を開催いたしました。

今回は、井田齊先生、山森邦夫先生、加戸隆介先生にご出席いただきました。

先生方からあたたかいメッセージを頂きましたので、ご紹介いたします。

井田先生…「久々に関西地区の卒業生皆様の元気なお姿を拝見し嬉しく、懐かしく思います。皆様のご活躍をお祈りします。」

山森先生…「卒業生と話ができて有意義だった。三陸の溪流で、卒論で毎日水中カメラを沈めて魚類の生態を研究していると、一週間も続けると警戒心の強いイワナやヤマメが慣れてきて警戒を解いて、カメラを沈めた途端に魚が泳ぎまわっていることなど、三陸ならではの発見を思い出した。」

加戸先生…「退職後、関西地区の会員となり、毎回懇親会に参加させていただいています。三重に居住しておりますので、三水会のかのお役に立てれば幸いです。」

そして参加した卒業生からは、1期生…「なかなか同期の方にお

目にかからず少し残念です。三陸でのルールを作り、本当に良い生活でした。」

2期生…「今さらながら、三陸でのくらしが貴重なものであり、素晴らしいかったという思いです。これから、年に一度ですがこの会に出て、元気をもらって帰りたいと思います。」

6期生…「関西地区におられる潜水部の方！関西地区親睦会にぜひ出席して下さい。」

7期生…「来られた先生、参加された方もいい思い出ができたかなと思います。参加できなかった方々も時間を調整していただいて参加願えたらと思います。」

8期生…「会を続けていただきたいです。また参加します。」

9期生…「先生のお話は相変わらず面白く、また再会したいと思います。」

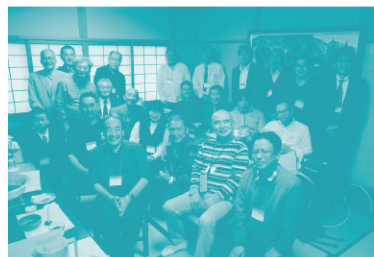
13期生…「先生にお会いできてうれしかったです。学生時代にもどれました！」

19期生…「卒業以来で、先生にお会いできました。学生時代の楽しい話に花を咲かせることができました。ありがとうございます。」

21期生…「久しぶりに三陸の話を聞き、懐かしく家族で三陸に行きたくなりました。」

また、5期生…「できれば、若い卒業生も参加できる企画も必要ですね。」と次回につながるご提案をして下さる方もいらつしやいましたので、さらに良い会ができるように幹事一同頑張りたいと思っています。

来年度も開催いたしますので、ぜひぜひご参加下さいますようお願いいたします。



地域貢献

水産食品学科6期 堀内 岳郎

この度、平成30年秋の褒章受章者に選ばれました。受章するのは教育や医療、産業振興などに寄与した人に送られる藍綬褒章で、弥彦村選挙管理委員長として選挙関係事務を20年に渡り取り仕切ってきた功績をみとめていただきました。大学卒業後、築地の水産会社、新潟市の食品会社に勤めたのち、平成元年3月、31歳で弥彦麓郵便局長を拝命しました。最初に選挙管理委員補充員になったのは

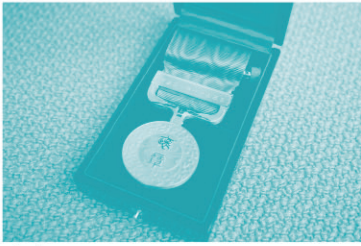
平成7年10月、区長や地元村議らが自宅を訪ねてきて直接頼まれました。平10年6月に40歳で選挙管理委員に当選、選挙管理委員長になったのは49歳のころです。委員長は年功序列が慣例となっていました。私が選ばれるという異例の抜擢でした。選挙管理委員の仕事は選挙事務のほか3か月に一度の定例委員会では選挙人名簿の調整などを行います。統一地方選挙は、4月に県議選と村議選の2回選挙を行います。これまでの選挙事務に一度も事故は無く、印象に残っているのは平成27年1月の村長選挙で、36年ぶりの選挙戦で現職と新人の一騎打ちで村が二つに割れるほどの激戦となり村内外から大いに注目されました。私が選挙管理委員長をしていることを近所の人にも知らない人が多かったのですが、地元の新聞に連日名前が出たため広く知れ渡りました。全国の友人から



伝達式

も当選証書を読み上げている映像をYouTubeで見たと連絡も多くありました。現在選挙管理委員6期

目、委員長になって3期目。平成28年12月の総務大臣表彰に続いての榮譽となり、受章が決まって「こんなに大変なものだとは思わなかった」と改めてその重みを感じています。新潟県の衆議院選挙・参議院選挙の投票率は平成2年以降、全国平均を上回っています。弥彦村では、選挙権年齢が引き下げられた平成28年の参議院選挙と県知事選挙で18歳・19歳の投票率が新潟県内で最も高く、選挙啓発の広報活動が投票率の底上げに貢献したと評価されました。妻との間に二女をもうけ、現在は妻と母親との三人暮らし。伝達式は11月6日、新潟県庁で行われ、14日、皇居豊明殿で昭和天皇の拝謁を受けてきました。「仕事柄、ミスや事故は慣れからくる思い込みだと思っています。決められた通りに決められた方法でやる」、今後も間違いのない選挙を目指します。



褒章

復活！大漁おどり太鼓

海洋生命科学部教授
高橋 明義（5期）

水産学部が三陸にあったころ漁火祭と呼ばれた大学祭は、渾一丁での「大漁おどり」が名物でした（写真1）。一期生の頃から水産放浪歌を放吟しながら貸切バスで釜石、大船渡、三陸を巡っていました。ゴールは三陸キャンパス。バスの後には目的は良く分かりませんが、「救急車」と記された横幕を貼った学生の車が追走していました。行く先々でアカフン踊りを披露した後は、酔仙をまわし飲みしていたとの伝説がいまも残っています。警察署の前も例外ではなかったようです。

大漁おどりに太鼓が寄贈されたのは昭和56年3月16日、「三水会第六回卒業生一同」からでした。



写真1 大漁おどり
（三期生卒業アルバムより）

それまでは、地元三陸町のお祭り実行委員会から拝借して行いました。革が破れないように、恐る恐る叩いていましたが、自前の太鼓を設えたことにより、思いっきり気兼ねなく叩くことができるようになりました。

平成に入ってから、釜石在住の理解者から支援を受けて盛大になっておりました。その一方で時代の流れに逆らうことはできず、残念ながら大漁おどりは21世紀の到来とともに終焉を迎え、過去のものとなりました。太鼓はしばらくの間体育館の倉庫に保管されておりましたが、東日本震災によるキャンパス移転の時には「歴史の証拠物件」として相模原へ移されました。これを使った震災復興の応援として、有志が三陸で大漁おどりを豪快に披露しました（写真2）。しかし製作から30年以上が経過し、革は緩んで本来の音は出なくなっていました。

ブヨブヨな太鼓を見かねた卒業生からは張り替えが提起されておりました。そんな折2018年に、有志らが中心となって集めた募金を原資として実行することができました。まさしく、打てば響く太鼓の音が戻って参りました。2018年11月14日にはその豪快な響きを相模原キャンパスで披露

いたしました（写真3）。夕方ではありましたが事務室から「試験中である」との指摘を受けて直ちに撤収したご愛敬もございました。でも試験監督の先生によれば、試験会場が反対側（北側）の教室だったこともあり、まったく気づかなかったとのこと。南側研究室の教員は工事中の音のように聞こえたそうです。いずれにせよ、2022年に創設50周年を迎える水産学部（現海洋生命科学部）への豪快な応援となることは間違いありません。



写真2 震災の年の三陸港まつりでの大漁おどり有志（越喜来中学校にて）張り替え共同代表の大坪孝志氏（前列左から2人目）と山本浩司氏（前列右から3人目）。



写真3 太鼓の音色披露



“ 掲 示 板 ”



■ 2019年度三水会定期総会のご案内

下記により2019年度三水会定期総会を開催します。

理事、代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：2019年5月18日（土）午後5時～（受付4時30分）

開催場所：北里大学白金キャンパス プラチナタワー12階3125会議室

（注）：開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は事務局までご確認ください。

- 議 事：1、2018年度事業報告及び収支決算報告。
2、2019年度事業計画及び収支予算。
3、その他。

*総会終了後、来賓を交え懇親会を予定しています。

■ 水産食品化学（食品化学）研究室同窓会を開催します。

日時・場所：6月8日（土）17時～ 新横浜プリンスホテル

会 費：12,000円（事前振込制、参加申込締切は原則5月7日までとさせていただきます。）

歴代の水産食品化学研究室の先生方をご参加予定です。

今回は、菅野教授の還暦祝いも兼ねておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

ご質問等ありましたら池田（adikeda@kitasato-u.ac.jp）までご連絡ください。

*参加申込等詳細は三水会HPをご覧ください。

■ 第57回北里大学同窓会公開講演会を以下のとおり開催します。奮ってご参加ください。

開催日時 2019年11月9日（土）14時から

開催場所 北里大学 白金キャンパス 大村記念ホール

講演者 椎名 誠（しいな まこと）氏

1944年東京都生まれ、作家

主な作品「犬の系譜」、「アド・バード」等

旅の本も数多く、探検、冒険ものなどを執筆

演 題 「辺境の食卓」



申込方法、申込期限など詳細は、決まり次第、海洋生命科学部同窓会・三水会のホームページに掲載します。

■ 「水産学部4期・5期・6期（昭和54. 55. 56年3月卒業）の集い」のご案内

2019年11月9日（土）16時より白金キャンパス薬学部2号館1階食堂におきまして、水産学部4期、5期、6期生を対象にした旧交を暖め、三陸を懐かしむ集いを開催します。学部長をはじめお世話になった先生方をお招きする予定です。

尚、対象会員には9月上旬に、案内葉書を発送いたします。

編集後記

平成最後の三水会報となりました。2018年の漢字は「災」でした。災いも最後になってくれれば良いのですが、ますます気候変動は盛んになっているようですので減災対策をしっかりとしましょう。さらに、環境問題にも関心を広げていけば気候変動の抑止にもつながるかもしれません。

さて2019年度は11月9日に全学同窓会講演会を作家の椎名誠氏を招いて開催いたします。世界の自然や環境にまつわるお話もあるかと思えます。また、同日に「水産学部4期・5期・6期の集い」と称して、4、5、6期生の同窓会を実施します。新しくなった白金キャンパスでの開催ですので、北里柴三郎記念館の見学もかねて、皆様奮ってご参加いただきたいと思います。